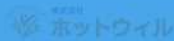


「その人らしい生活を支援する 地域と支援者の重層的支援」

株式会社ホットウィル
リハビリセンターウィル片野
生活相談員 矢野優



目次

1. A様について
2. 地域（仲間）支援
3. プロフェッショナル支援
4. ケアマネージャーと共有、連携した点（多職種連携）
5. まとめ



A様について



現在85歳のA様
23歳（1962年）に独立してめがね屋を開業
2018年3月にパーキンソン病発症
2018年5月からデイサービスご利用開始
デイサービス利用しながら、店を切り盛りする
そして、病状の進行により2024年に閉店となる



A様について



お仕事柄、デイサービスでも他お客様との交流はとても社交的。同一疾患のお客様とのコミュニケーションも積極的に行われていました。

デイサービスの利用時は社交的な言動がみられるが、ご家族様には「周囲の方々には迷惑をかけたくない」という気持ちを強く伝えていたようです。



地域（仲間）支援



- ・約60年間、長年にわたりめがね屋の経営
- ・早朝野球のメンバーとの交流
- ・小学校の同窓会
- ・パーキンソン病友の会
- ・リハビリセンターウィル片野



A様の希望



- ・めがね屋の経営の継続
→毎日店を開けることが出来る
お店の60周年まで店を続ける
毎日通勤し仕事を続ける
- ・家族と旅行に行きたい
- ・地域（仲間）との交流
→同窓会、パーキンソン病友の会の参加
リハビリセンターウィル片野の継続
- ・身体機能の維持
→散歩や自主訓練の取り組み



プロフェッショナル支援

A様の目標

- ・毎日店を開けることが出来る
- ・お店の60周年まで店を続ける
- ・家族と旅行に行きたい

etc.



プロフェッショナル支援

デイサービスでの内容

- ・集団体操
ストレッチ体操
月間体操（ボール体操・体幹トレーニングetc）
起立トレーニング 20回3セット
- ・マシントレーニング 1台10分間
- ・理学療法士による、個別トレーニング、
日常生活動作のアドバイス



プロフェッショナル支援

要支援2の認定でしたが、デイサービスは
お店の定休日の水曜日、週1回のご利用。
仕事が入ると、デイサービスを休まれ
お仕事優先にされる。
ご自宅では、ストレッチ・スクワット・散歩
筋力トレーニングなど、行われていました。



株式会社
ホットウィル

プロフェッショナル支援

介護保険以外にも、
訪問鍼灸サービス利用での心身のケア。

地域（仲間）、専門的な支援により

めがね屋の継続
ご家族との旅行、音楽会の鑑賞
同窓会、パーキンソン病友の会の参加



株式会社
ホットウィル

ケアマネージャーと共有、連携した点（多職種連携）



2018年～デイサービスご利用開始時は、病状の大きな進行もなく、定期的な利用状況の報告。
2024年に入ってから、すくみ足歩行がみられるようになり、歩行時に介助を要するようになってきたことにより、毎利用時の報告を行う。

株式会社
ホットウィル

ケアマネージャーと共有、連携した点（多職種連携）



2024年3月～7月にかけて病状進行により、利用控えが多くなる。
理由としては、「トイレに時間がかかるようになり人に迷惑をかける」からとのこと。
自宅訪問時には、自室からリビングまでの間に、物干し竿で作製した簡易的な手すりの設置されていた。

株式会社
ホットウィル

まとめ

約60年間、地域に根ざした経営を続け、2018年にパーキンソン病を発症後も「店を開け続ける」「60周年まで続ける」という強い意志を持ち、地域の仲間や専門職の支援を受けながら生活されてきました。

2024年に病状の進行により閉店を迎えましたが、地域と専門職が連携し「その人らしい生活」を支え続けた事例です。



株式会社
ホットウィル

まとめ

課題として、病状の進行に伴う生活の変化へ迅速な適応、外出機会の確保、閉店後の心理的サポートが挙げられます。

自宅環境の整備や、多職種連携の強化を図り、地域とのつながりを維持しながらA様が自分らしい生活続けられるよう支援を行うことが重要と思われます。



株式会社
ホットウィル